

ていました。





「板橋交流事業」市内で野菜の収穫などを体験



ブルーベリーを摘み取る参加者たち

崎公園を散策し市を後にしました。 最後は霞ヶ浦の自然に触れながら歩

参加した女性は、

「凍らしておいた

が参加し、 毎年恒例となっている「板橋交流事市内の自然を満喫 業」の一環の観光交流ツアーに、 かすみがうら市を訪れまの観光交流ツアーに、45人

冷た 農園で昼食をとった後、 に子どもたちは興味津々でした。 穫、時折現れるバッタやカエルなど農園でラディッシュなどの野菜を収 参加者は、 アイスで暑さをしのぎました。 農園で摘み取りを体験. 葉茶やブルー 宍倉のブル 同

は甘いし安心して食べられる」と話しまま食べたり。直接摘み取ったものいる。ヨーグルトに入れたり、そのブルーベリーを毎朝かかさず食べて

ソーセージとアイスづくりを親子で体験

19_H



ソーセージの燻製を珍しそうに 間近で眺める子どもたち

どい」が多目的会館で開催されまし「平成20年度青少年育成を考えるつ

約200人の関係者の参加のもと、

と市PTA連絡協議会の共催により

青少年育成かすみがうら市民会議

中学生の意見に素直に耳傾ける

は、肉を(そのまま)食べているようなので家でも作れそう。ソーセージ ものもおい 作ったことはあるけど、 東)は、「アイスクリ 親子協力し合って作業を進めま ねて、専用の道具で腸に詰めるなど

卵や牛乳、生クリカたウィンナー 職員から指導を受けながら、 ました。 県畜産センター(石岡市)の ながら混ぜてアイスクリ の親子が集まりました。 今回は、 市では、 ジ・アイスクリ あじさい館の調理室に71組 羊の腸に豚のひき肉を詰 霞ヶ浦公民館講座「ソ 生クリー - ムを氷で冷や-ム手作り教室」 ムを作り 肉をこ 次に

「青少年育成を考えるつどい」が開催

の主張発表で、

日常生活の中で感じ

8人の中学3年生から

ている等身大の素直な意見が発表さ

と題した渋谷照夫先生(のびる学園第2部は、『子どもの心、大人の心』れ、なごやかな空気に包まれました。

れば子どもも変わる」という10箇条

が披露され、

参加者からは、「大人

みたい」そんな意見が聞かれました。

としての行動を今一度チェックして

長)の講演会が行われ、

「大人が変わ



たものに舌鼓を打ちました。

参加した浦悠衣ちゃんの親子(稲吉

しかった。これなら簡単

こ、今日作った-ムは自宅でも

た。子どもたちは、時間をかけて作っ

中学生の主張に耳を傾ける参加者

第23回国民文化祭かすみがうら市主催事業

第4回市生涯学習フェスティバルを

紹

フェスタ に向け準備着と!

型づくり教室やダンス、

音楽、

民俗芸能、

は実際に帆をあげ、そのまわりで帆引き船の模

場に実物の帆引き船を展示します。

11月9日に

ています。

フェスタ期間中、

あじさい館コミュニティ広

スタでの展示や発表に向けて着々と準備を進め



ています。

-クル、スクー

を披露しようとコーラスや民謡の講座も行われ

ほかにも、市内の小中学生、文化団体、

ルなど、多くの団体が、

こととなっています。

また、

テーマにあった歌

していて、これらは期間中会場に展示される

小学生から大人まで、

思い思いの作品を制

ランプシェード

たタペストリー

アロマランプ(陶芸)づくりの講座がありま

市民と帆引き船との新しい出会い

(パッチワーク)やランプシェー

そのひとつに、七色帆引き船をモチ

ーフにし

画されています。

方が参加できるようなさまざまな催しものが計

される企画委員会が中心となり、

らとなり、多くの市民の 市民の有志の方で構成

船と霞ヶ浦」をテーマに、

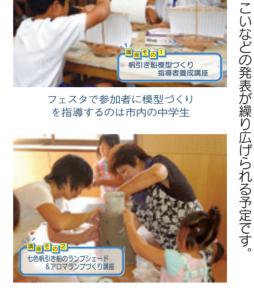
主催事業『帆引き船フェスタ』に向けて、

「帆引き

この秋開催される国民文化祭かすみがうら市

帆引き船模型づくり 指導者養成講座

フェスタで参加者に模型づくり を指導するのは市内の中学生



粘土と和紙の素朴な材料を使って 光と影の幽玄の世界を作り出す ランプシェードを作成



帆引き網漁法が盛んだった頃 漁師が実際に歌っていた "わかさぎ大漁節"と"霞ヶ浦帆引き歌"を練習



帆引き船(帆引き網漁法)を秋田県八郎潟に 伝え広めた本市田伏出身の坂本金吉氏の 実孫坂本九氏の歌を練習



色とりどりの布を張り合わせ 素敵な模様の帆を作成

